

献辞

岩崎晃先生は昭和22年7月10日に香川県にお生まれになりました。昭和45年3月に香川大学経済学部を卒業の後、同年4月に京都大学大学院経済学研究科修士課程に進学され、昭和47年3月に同課程を修了、同年4月に同博士課程に進学、昭和50年3月に博士課程を単位修得満期退学されました。昭和49年4月に甲南大学経済学部助手として着任され、翌50年4月に同講師、昭和53年4月に同助教授、昭和58年4月に同教授に昇任されました。その後、平成13年4月に甲南大学EBA 高等教育研究所に教授として異動され、平成18年4月より経済学部教授として復帰されました。この間、昭和55年8月より翌年8月までミシガン大学経済学部客員研究員として在外研究に行かれました。先生は平成27年3月をもって41年間の在職となります。

岩崎先生の研究領域は、主に、企業行動と企業間競争、および政府の競争政策・公共政策です。先生は、産業組織論の研究手法にもとづいて、市場競争の長所を活かす視点から、この分野で多数の著作を発表するとともに、調査活動、政策提言、評論活動、翻訳など研究者として多彩な活動を展開してこられました。これらは、それぞれ時々の日本経済の現実に対して、企業行動および政府政策を分析することで鋭く切り込むものでした。岩崎先生の研究業績は、次のように整理することができます。

第1は、企業の行動に関する研究です。大手企業の非効率性(X-非効率)を利用した経済行動、さらには、強い競争関係(競争的寡占)のもとでの企業の投資行動の安定性・不安定性を論じるものです。E.S.Q.論文など、比較的初期の諸論文がこれにあたります。

第2は、広告の経済分析です。高い費用をかけマスメディアを利用した大手企業の広告が情報提供的かどうかと関わりなく、企業や製品の知名度を上

げ効果を発揮することについての競争促進の観点からする評価を行ったものです。

第3は、政府の競争政策（独占禁止政策）についての研究です。競争活発化の意義を理論的に論じるものです。この領域の研究では、公正取引委員会の刊行物、レポート、雑誌等に多くの論文が発表されています。また、当時の経団連見解への反論も新聞紙上で行うとともに、行政委員会としての公正取引委員会のあり方についても論じておられます。さらに、競争政策の基礎となるべき産業組織の実態調査も数多く行っておられます。これらの調査においては聞き取りを含めた諸調査における取りまとめの役割を果たしてこられました。

第4は、翻訳活動です。産業組織、企業行動・企業組織の分野の翻訳書を刊行してこられました。その一つ、O. E. ウイリアムソン『市場と企業組織』（浅沼万里との共訳）は2009年にノーベル経済学賞を受賞した原著者の主著です。同書の翻訳は、取引コストや企業の垂直的統合、独禁政策等についての彼の議論と分析手法の日本での浸透において大きな意義をもつものです。

教育においては、経済学部および社会科学部研究科経済学専攻にあって日本経済、経済政策、産業組織、産業政策等の主要科目を担当され、厳しくまたあたたかい姿勢で学生の指導にあたってこられました。先生のゼミには産業に関心をもつ個性豊かな学生が多く集まりました。また、平成13年4月にスタートした「EBA 総合コース」での教育にあたっては、アメリカのニューヨーク州立大学バッファロー校への1年間の留学を含む先端的な学部教育の実現に中心的な役割を果たされ、国際的経験をもった主体的かつ積極的な甲南生の育成に大きな成果を上げられました。

大学行政の面においても、岩崎先生は数々の役職および委員を勤められ、大学の発展に大きく貢献されました。阪神淡路大震災後の平成7年4月から平成9年3月までの2年間にわたって経済学部長を務められ、学部運営の重

責を果たされました。EBA 高等教育研究所にあっては、平成12年12月から翌年3月まで同研究所開設準備室長としてEBA 総合コースの立上げを主導され、開設後は平成13年4月から翌年12月まで同所長として同コースの完成に向け、教育実践、管理運営、対外折衝等に多大の貢献をされました。また、平成10年4月から十数年間甲南学園理事（5号、4号）・常任理事として学園経営に参画し学園の運営も担われました。また平成10年4月から十数年間学園評議員も務められました。

社会活動・学会活動にあっては、長く関西経済研究センターでのプロジェクトや公正取引委員会の委託調査、JICA 研修に幹事、委員、講師として参加されました。

以上のように、岩崎先生は、甲南大学在職中、研究・教育・行政のいずれの方面においても長きにわたって多大の貢献をされました。岩崎先生のご健康とますますのご健筆を心からお祈り申し上げますとともに、今後も私たち後進にご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ここに本記念号を捧げ、先生に感謝の微意を表しますとともに、重ねて先生のご多幸を祈念いたします。

平成27年3月

経済学部長／経済学会評議員長 高龍秀